

## 令和2年度 岐阜県農政審議会（第1回） 開催結果

1 日 時：令和2年9月11日（金） 10：00～11：40

2 場 所：県議会西棟3階第1会議室

### 3 出欠状況

（出席者）

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 板津 徳次  | （岐阜県町村会副会長・富加町長）                 |
| 岩井 豊太郎 | （岐阜県農業共済組合連合会会長・一般社団法人岐阜県農業会議会長） |
| 大山 健二  | （岐阜県青年農業士連絡協議会会長）                |
| 片岡 美穂  | （岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク会長）    |
| 加藤 大博  | （岐阜県議会農林委員会委員長）                  |
| 神谷 眞弓子 | （東海学院大学学長）                       |
| 河田 昌子  | （岐阜県JA女性連絡協議会会長）                 |
| 後藤 昌宏  | （岐阜県指導農業士連絡協議会会長）                |
| 櫻井 宏   | （岐阜県農業協同組合中央会会長）                 |
| 杉山 ミサ子 | （アグリ・エンジョイネット岐阜会長）               |
| 高田 禮子  | （ぎふ農業委員会女性ネットワーク会長）              |
| 竹中 昌子  | （一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会会長）           |
| 玉田 和浩  | （岐阜県漁業協同組合連合会会長）                 |
| 道家 晶子  | （岐阜市立女子短期大学副学長）                  |
| 福井 博一  | （岐阜大学副学長）                        |
| 村下 貴夫  | （一般社団法人岐阜県畜産協会会長）                |
| 山内 清久  | （全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長）        |

以上 17名

（欠席者）

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 林 喜美子 | （生活協同組合コープぎふ組合員理事） |
| 藤原 勉  | （岐阜県土地改良事業団体連合会会長） |
| 山内 登  | （岐阜県市長会・下呂市長）      |

以上 3名

※50音順

(事務局：岐阜県農政部 以下20名)

農政部 部長、次長(事務、技術)

次長兼東京オリンピック・パラリンピック農産物販売対策総括監

農政課 課長、技術総括監、スマート農業推進室長、農業研究企画監

検査監督課 課長

農産物流通課 課長

農業経営課 課長、担い手対策室長

農産園芸課 課長、花き振興企画監

畜産振興課 課長

家畜防疫対策課 課長

家畜伝染病対策課 課長

農村振興課 課長兼鳥獣害対策室長

里川振興課 課長

農地整備課 課長

#### 4 内 容

・議事「新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の骨子(案)について」

#### 5 議事録 別紙のとおり

## 令和2年度岐阜県農政審議会議事録要旨（案）

### 1 開会

### 2 挨拶

#### 【長尾農政部長】

- ・委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ・新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定について、今年3月に本審議会に諮問させていただき、新たな計画に盛り込むべき考え方や方向性について、ご審議いただいたところ。
- ・本日もご審議いただく新たな計画の骨子案は、計画策定部会委員や市町村、JA等の皆様方のご提言・ご意見を十分に踏まえるとともに、昨今の新型コロナやSDGsなど、新たな課題への対応も加味しながら、作成した。
- ・本日は、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 3 議事

#### (1) 議事録署名者の選任

##### 【福井会長】

- ・議事録署名者に櫻井委員と、後藤委員を指名。

#### (2) 新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の骨子（案）について

##### 【酒井技術総括監】

- ・資料1に基づき、現行計画の進捗状況について説明。
- ・資料3に基づき、「新たな『ぎふ農業・農村基本計画』の骨子（案）」について説明。

##### 【福井会長】

- ・令和元年度の目標達成状況に関して、「目標値を達成した」項目は、的確に分析・把握されている。一方で、「目標値を下回った」、「基準値を下回った」項目は、課題と今後の方針が必ずしも一致しておらず、関係者以外の方たちも含めた分析をする必要があるのではないかと。その点を含めて、再度骨子に反映してもらいたい。

##### 【玉田委員】

- ・魚苗センターの稚鮎の生産量が目標値を下回ったとあるが、目標値の72tは、全ての施設を稼働できた時の生産量。現在は、古い施設を改修している段階であるため、すべての

施設が生産ができれば、72 tを上回ることができる」と自信をもっている。

**【岩井委員】**

- ・ 現行計画において、計画に基づいた予算の裏付けを行ってほしい。
- ・ 現行計画の中で、目標値を下回った課題に対して、関係団体に問題提起をして、目標を達成するよう努力する必要がある。
- ・ 地産地消など、県民ぐるみで取り組まなければならない課題もあり、新たな計画では、県民への周知を強める必要がある。

**【加藤委員】**

- ・ 担い手育成数は目標を達成しているが、実際には、現場で人手不足が解消した、農業の市場規模が拡大したという話を聞かないため、2000人の中身をもう少し考えていく必要があるのではないか。その辺りに関して、今後の方針を教えてください。

**【宮田担い手対策室長】**

- ・ 新規就農者は現行計画の4年間で385人育成。新規就農者が比較的多いトマトやいちごなどは、産地規模で、作付面積はやっと維持できたというところ。一方で、水田農業では、法人化による規模拡大の結果、着実に雇用就農が伸びており、一定の効果を感じている。定年帰農者も朝市・直売所施設などを中心に伸びており、着実に直売所等の売上増加につながっているなど、それぞれ、地域の農業振興の下支えという点では貢献できていると考えている。
- ・ 新規就農者をさらに育成するうえでは、農地の確保など限界がある部分もある。新たな計画では、担い手の形態別に、それぞれがどういった産地や品目を維持していくのかということ踏まえた目標設定を考えていきたい。

**【加藤委員】**

- ・ 県が、県内の農業のどこを伸ばしていきたいかを明確に定め、そのために、どのような人材が必要なのかをしっかりとターゲットングしてほしい。
- ・ 新たな計画では、中山間地域が重要テーマということだが、中山間地域は、実際には、農地の維持自体が難しい環境にあると実感している。中山間地域においても、平坦地域においても、農業で生活を賄うことができ、農業・農地を守っていくというモチベーションにつながるような施策を考えてほしい。
- ・ 集落営農の組織化についても、収入が不十分というケースが見受けられ、現状打破できる力にはなっていないと感じており、新たな計画では、どのように対応していくのかを教えてください。

**【宮田担い手対策室長】**

- ・ これまでに、担い手を育成する体制を整えることはできたと考えている。
- ・ 今後は、育成者、既存の担い手も含めて、儲かる農業に向けて経営定着していく必要があると考えている。新たな計画では、その辺りのフォローアップを強化していくため、経営面の専門家の派遣による足腰の強い経営体の育成など、「数」から「中身」にシフトした施策にも取り組んでいきたい。

**【櫻井委員】**

- ・ 国の食料・農業・農村基本計画では、新たに「家族経営、中小経営」の農業者に焦点をあてたところ。新たな計画では中山間地域を重点にするということだが、「家族経営、中小経営」のような言葉を用いて具体的に盛り込んでいただけると理解が得られるのでは。
- ・ JAグループとしては「食料安全保障」というくくりで、農業政策を考えているところ。食料自給率が一つの指標になると考えており、具体的な施策を打ち出せると良いのではないかと考えている。

**【福井会長】**

- ・ ただいまの意見を踏まえ、骨子案に反映してもらえれば。

**【村下委員】**

- ・ 現行計画において、目標値の設定はどのように行っているのか。

**【雨宮次長】**

- ・ 現行計画の目標値について、それぞれの施策ごとに分析を行い、目標値を設定したものである。よって、一律的に、「何パーセント上げる」などとの設定は行っていない。

**【村下委員】**

- ・ 目標値の設定には財政的な裏付けが必要である。今回、目標が達成できなかった一番の要因は、予算が足りなかったということか。

**【雨宮次長】**

- ・ 原因の一つであると思うが、県財政も限りがある中で、重要な政策から予算要求を行い、可能な範囲で対応しているところ。

**【村下委員】**

- ・ 新たな計画では、目標を設定する際に、予算の裏付けをしっかりと行ってほしい。
- ・ 骨子（案）に、記載のある新たな食肉基幹市場の建設促進について、この施設は全県的な

ものであるため、しっかりと関与してほしい。

#### 【後藤畜産振興課長】

- ・新たな食肉基幹市場の建設に向けて、今年、促進協議会内に作業部会が立ち上がり、これから作業を進めていくところ。県も参画して予算等についても相談しながら、議論を深めていきたい。

#### 【山内委員】

- ・平成17年に初めて香港に柿を輸出してから、ここにきてようやく飛騨牛の輸出が目標を達成しているというのは、10数年の実績が出てきていると感じている。
- ・飛騨牛に続く第2の品目を県と連携しながら、一緒になって考えていくことが大事であると思う。
- ・コロナ禍において、良い農産物、食品を作れば、認めてもらえると感じており、地域の中でそういった動きを応援できるよう、もう少し中山間地域に光を当てた計画にしてほしい。

#### 【道家委員】

- ・コロナ禍において、「地産地消」の重要性が高まったと考えており、新たな計画では、基本方針の2と3において、「ぎふの食づくり」、「ぎふの農畜水産物の展開」という項目にしてもらい、大変ありがたい。
- ・農村づくりは、環境への効果もとても大きいため、なかなか指標に設定しにくいと思うが、力を入れて取り組んでほしい。

#### 【大山委員】

- ・自身は農地を守るために農業をやっているわけではなく、商売として農業をやっている。
- ・審議会委員になる前は、県でこのような計画を策定していること自体知らなかった。一般の農家が、新たな計画を見て、夢を描けるようなものにしていかないといけないと感じており、協力して、良いものを作っていきたい。

#### 【河田委員】

- ・JA女性連絡協議会の女性部では、食農活動を行っているが、コロナの影響により、活動ができておらず、コロナが終息したときに、どれだけの会員が元気に活動を行うことができるかを大変心配している。県の協力を得ながら、前向きに発信していきたい。

#### 【高田委員】

- ・農業者の高齢化が進んでいる中で、荒廃した農地をどのように活用するのか。自身が所属

する農業委員会では、今後の農地の利用状況を確認する個別の意向調査を実施しており、農地を守っていただけるなら預けると考えを変えていただけた事例もある。

- ・担い手確保には手厚い支援と技術面の指導等の充実による儲かる農業の実現が必要。
- ・福井会長と同様、現行計画の課題と今後の方針が一致しない項目が、2～3か所ある。

#### 【竹中委員】

- ・「清流の国ぎふ」という名称は、すごく爽やかで、岐阜を代表するような良いイメージを与えていると思う。
- ・青森県では、女性の起業家が農業や特産品を研究し、活躍している事例があり、岐阜県でも、そういったチャレンジする方に対して、温かい目で見してほしい。
- ・消費者の目線として、岐阜には飛騨牛や鮎、柿など、良いものがいっぱいあるので、しっかりとPRしてほしい。

#### 【板津委員】

- ・新たな計画の内容としては、それなりのものができているのではないか。
- ・全国的な流れと同様に、岐阜県においても大きな農業と小さな農業の2本柱をどう支援していくかが大事になると思う。特に水田農業における農地集積を進めるためには、大規模農家に対する、補助金などお金だけでなく、一定のインセンティブを付与する方策が必要であると思う。例えば、借地料は無料が一般的となっているが、貸し手が、土地改良費を払うことなどが、問題となって、農地を貸さない事例もあるため、そういったことも支援をできればよいと考えている。細かな事例としてあげた借地料の問題についても、計画の中に盛り込んでもらえればありがたい。
- ・新規就農者にとって農業次世代人材投資資金などが就農の大きなきっかけとなっていると思う。そういったインセンティブがないと農業経営は難しい状況になっており、その辺りも新たな計画に反映してもらえるとありがたい。

#### 【神谷委員】

- ・ブランド展開で大事なのは、オンリーワンの商品を生み出すこと。岐阜県には様々な農産物があるが、他の地域と競合するようなものが多い。その中で、例えば、バラであれば、化粧品会社とタイアップして、素晴らしいバラの香りを活かした商品づくりなど、岐阜県にしかない、商品の差別化ができれば、自ずと売れていくと思う。若い方のアイデアを取り入れながら、既存の農産物の商品開発やオンリーワン化を進めるために、県としても人材や予算を振り向けてほしい。
- ・広報戦略において、高級ホテルやレストラン、国際イベントでのPRだけでなく、全国にあるコンビニや郵便局、銀行などの基盤をアンテナショップや販売経路として利用していくのもおもしろいのではないかと思う。差別化された商品と合わせて、広報戦略を

徹底していけば、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」の取組みがより良いものになるのではないかと思う。

#### 【後藤委員】

- ・新規就農者がハウスを建設する際、近年の頻発化・激甚化する自然災害を踏まえ、ハウスの強靱化への掛かり増し経費への支援をお願いしたい。
- ・担い手への農地集積について、自身の地元では集積率が90%を超える。水稻の担い手に話を聞くと、しっかりと基盤整備が行われていれば、中山間地域であっても受けられる農地はたくさんあるとのこと。土地改良がしっかりと行われれば、中山間地域であったとしても、集積率は上がると思うので、推進をお願いしたい。
- ・主食用米について、今年産の米価は下がり、来年はもっと下がることが予想される。水田面積が減らないよう、主食用米から飼料用米、加工用米など需要に応じた作付け生産を推進してほしい。

#### 【杉山委員】

- ・ツルムラサキを栽培し、加工して、販売まで行っている。ツルムラサキを食べて元気になったという方が何人もおり、岐阜薬科大学と連携した発信などもできればと思う。
- ・農業法人は県内で増えているのか、減っているのか、その辺りの状況を教えてほしい。
- ・地元の農業法人では、月給制で、従業員のモチベーションにつながる、思い切った給料を出しており、若い方の同法人への就職が増えていると聞く。若い方にとっては、生活を支える収入面の優先順位が高いため、こういったことに取り組んでもらえれば、若い人の農業離れを抑制できると思う。

#### 【宮田担い手対策室長】

- ・農業法人数は、平成21年度には415、10年後の令和元年度には681と法人数自体は約270増加している。農業就業人口が減少する中で、経営規模拡大は進んでいる。法人化して従業員を雇い入れる、そのためには、規模拡大を行っていくという流れは着実に進んでいるので、引き続き、推進していきたいと考えている。

#### 【片岡委員】

- ・審議会委員になるまで、「ぎふ農業・農村基本計画」の存在を知らず、周囲の方でも知っている方はほとんどいないと思う。岩井委員同様、末端の農家まで新たな計画をしっかりと知っていただくのが重要であると思う。
- ・新規就農してから5年間は農業次世代人材投資資金により何とか経営していけるが、その間に、自らの力で収入を得られるようになっていないと、5年目以降に、断念してし



もう方も多いのではないかと思う。独り立ちできる最後の最後までフォローできるよう手を尽くしてほしい。

- ・自身も水田で米、麦、大豆を作付けしているが、何十年と作付けさせていただいた水田を、地権者から来年度以降は作らなくても結構ですと言われた場合、担い手にとって物凄く大きな痛手となる。一方で、その地権者が高齢で営農できなくなった場合、その農地を誰が引き受けるのかなど、そういった状況や対応を計画にも盛り込んでほしい。

#### 【岩井委員】

- ・今年3月に閣議決定・国の「食料・農業・農村基本計画」において、一番大きなウェイトを占めているのは食料自給率を増大させることではないかと思う。国は今回の計画でも現在38%の食料自給率（カロリーベース）を10年後には45%にするとしており、前計画でも同様に10年後に45%まで伸ばすとしていたが、実際にはほとんど伸びていないのが現状。
- ・岐阜県の食料自給率はわずか25%。食料安全保障の観点からも、できれば半分くらいは県内で賄うようになればと思う。食料自給率はあくまでも基本となるものであることから、計画の中にも食料自給率を前面に出し、食料自給率を50%くらいまで伸ばしていくことを、もう少し計画に盛り込んでもらえると良い。
- ・農業の分野でも自国のものは自国で賄っていくという方向で、我々岐阜県も、そういった方向を示すことを盛り込んでほしい。

#### 【福井会長】

- ・委員よりいただいた意見について、事務局では新たな計画に、できる限り盛り込んでほしい。

## 4 閉会

#### 【田口農政課長】

- ・これで、本日の審議会を閉会する。

#### 【長尾農政部長】

- ・本日頂戴した意見、提言について、今度、検討及び議論を進めたい。
- ・今後は2回の計画策定部会を経て、議会での説明、パブリックコメントを行い、基本計画の内容を固め、来年1月頃に審議会を開催させていただきたく予定。
- ・随時、ご意見をいただき、キャッチボールをさせていただきながら進めていきたいと考えており、今後ともご指導をお願いしたい。